

■ 資料 1

東京地方裁判所平成7年（ヨ）第1007号仮処分申立事件

和解条項

■ 資料 2

東京地方裁判所平成7年（ワ）第8532号事件

訴 状

JAVA

JAPAN ANTI-VIVISECTION ASSOCIATION

動物実験の廃止を求める会

〔資料 1〕

東京地方裁判所平成七年(ヨ)第一〇〇七号仮処分申立事件

債権者 動物実験の廃止を求める会(JAVA)
債権者 椎名公子と鶴田孝子
債務者 野上ふさ子

和解成立 平成七年四月二十七日

裁判官 小池晴彦

和解条項

一、債権者らと債務者は、左記事項を相互に確認し、双方異議を述べない。

記

- 1 東京都渋谷区桜丘町二九番三三三号「動物実験の廃止を求める会(JAVA)」ないし同会代表椎名公子あての郵便物が右肩書地に配達されること。
- 2 東京都文京区千駄木一丁目二〇番四号(旧住所東京都文京区向ヶ丘二丁目三七番八号多田ビル二階)「動物実験の廃止を求める会(JAVA)」ないし同会代表野上ふさ子あての郵便物が、右肩書地に配達されること。
- 三、債権者らは、本件仮処分命令申立事件を取り下げる。
- 三、本件申立費用は各自の負担とする。

以上

〔資料 2〕

〔東京地方裁判所平成七年(ワ)第八五三二号事件〕

平成七年五月二日

訴状

原告

動物実験の廃止を求める会(JAVA)
右代表者事務局長 椎名 晏子

被告

野 上 ふさ子

原告訴訟代理人

弁護士 小 泉 征一郎
同 荒 木 昭 彦

東京地方裁判所 御中

地位不存在確認等請求事件

訴訟物の価額(算定不能)
貼用印紙額

金八、二〇〇円

請求の趣旨

- 一、被告は原告に対し、被告が原告の代表者でないことを確認する。
- 二、被告は「動物実験の廃止を求める会」あるいは「JAVA」の名称を使用してはならない。
- 三、被告は原告の一切の活動を妨害してはならない。

請求の原因

一、原告は、動物実験の廃止を求めて活動する市民団体(権利能力なき社団)である。

原告は、一九八六年三月に設立され、現在は全国に約四、〇〇〇名の会員があり、動物実験の廃止を求める新聞広告の掲載や展示、請願などを通じて動物実験の廃止のための活動を行っている。(甲第一八ないし二五号証)

会の活動の中心となるのは事務局であり、事務局の意思決定は事務局スタッフ会議で決せられる(会則一〇条)。事務局スタッフの中から運営委員が選ばれ、会運営上の最終的意思決定は運営委員会が行う(会則一三条一、二項)。会の代表者は事務局長である(会則一二条一項)。

二、原告の会員は、スタッフを含めて全員が家庭の主婦や他に本職を持つ勤め人、学生などの動物好きなボランティアであるが、被告だけは若い頃から政治活動を行っていた闘士であり、その政治プロとしての手腕を用いて原告を牛耳ってきた。そして被告は平成三年より平成七年三月二日まで原告の代表者(事務局長)の地位にあったものである。

三、被告の原告代表者としての組織運営は全くの独裁であり、会則(多数決原則)は完全に無視してきた。会員名簿すら被告が独占管理し、執行部であるスタッフに対してさえ、自由に見たり、コピーをとったりはさせなかった。会計は被告の秘密管理であり、会計帳簿、預金通帳等を独自に保管し、運営委員にすらそれを公開していない。他方では、ある会員が運動の成果を上げると、被告は当該会員をさしおいて、さっさと記者会見をしてしまう等、独断による会運営を行ってきた。

四、

被告のこのような独裁体制に対して、会員やスタッフ、特に会運営の中心となる運営委員の方から批判が続き、平成七年三月頃には、運営委員七名中六名（被告を除いた全員）が被告のやり方を批判し、事務局スタッフでは一三名中被告を除くほぼ全員が被告を批判していた。

このような状況において、平成七年三月二日、原告の最終意思決定機関である運営委員会において、被告は、原告の代表者ならびに運営委員と事務局スタッフの全ての役職を辞任する旨を申し出、これは運営委員会ですらに承認され、発効した（甲第二号証）。

また同日午後開かれた事務局スタッフ会議でも、被告は再度、代表（事務局長）、運営委員、スタッフを辞任したい旨申し出をなし、出席スタッフ全員で承認された（甲第三号証）。欠席のスタッフ一名は同日電話で承認した。

そして同日、直ちに引き継ぎがなされ、被告より貸金庫の鍵と印鑑、会計帳簿、会員名簿のコピー、会の貴重な財産である動物写真のネガ等が運営委員会に引き渡された。

なお、被告が同日の二回の会議で申し出た辞任の理由の主なものは以下のようなことであった。

- ・一 ボランティアになって、自由な立場で、束縛されずに執筆活動に専念したい。
- ・ J A V A が大きくなって運営が難しくなったが、自分は運営には向かない。
- ・ 今後ネットワーク的な会をやっていききたい。
- ・ スタッフの人達との信頼関係がなくなった。

五、その後三月二八日、現代表者である椎名安子（ペンネーム、本名は鶴田孝子）が原告代表者（事務局長）に正式に選任された（甲第四号証）。

六、原告は、従前東京都文京区千駄木一丁目二〇番四号に事務所を置いていたが、同所がスタッフにとって不便であり、これを移転する必要があるため、被告が辞任した同日（三月二一日）のスタッフ会議において、事務所を渋谷方面に移転することが決定された（甲第三、五号証）。

その後新事務所として、東京都渋谷区桜丘町二九番三三三号渋谷三信マンション五〇七号が決まり（甲第六号証）、四月七日引越しを終了した。

七、

被告から新執行部への事務引継ぎ（貸金庫のキーの引渡し、会計帳簿の引渡し等）は順調に行われてきたが、三月二八日椎名安子が新代表に選出されたところから、被告は、辞任したことを否定し始めた。そして被告の辞任を承認した運営委員五名とスタッフ一名を除名すると勝手に言い出し、その旨を記載した葉書を全国の会員に送りつけ（甲第七号証）、また事務局長名を借称して、単独で、「会員の皆様へ」として新体制の運営方針を全国の会員に通知し（甲第八号証）、さらには既に原告の代表者

としての地位にないにもかかわらず、原告の会員総会を四月二二日に開くとして独断で招集通知を発するなど（甲第九号証）、原告に対して異常な敵対行動をとり始めた。

また原告が新事務所への移転届を本郷郵便局に提出したところ、被告は「住所移転届の無効確認書」（甲第一一〇号証）を同局へ提出して、郵便物が原告へ転送されることを妨害した。さらには原告が渋谷区桜丘町の現住所から文京区千駄木一丁目の従前の住所へ再度転居した旨の虚偽の転居届を、原告になりすまして勝手に渋谷郵便局へ提出した（甲第一二二号証）。この転居届は無権限の被告の犯罪行為であることは明らかである。（刑法第二三三条「偽計による業務妨害罪」）

八、被告の極めて悪質な点は、大嘘をついて全国の会員を騙し続けていることである。

（一）被告は、三月二一日、運営委員会（午前）と事務局スタッフ会議（午後）において自ら事務局長辞任を表明し、三月二七日までは事務引継ぎを行い、渋谷への事務所移転にも協力してきたが、二八日に新事務局長に椎名安子が選任されたときから態度を豹変させ、「未だ事務局長である。」等と言いつつ出したものである。そして会員には、三月二一日の辞任から二七日まで新執行部に協力してきたことは一切公表せずに隠している。

（二）被告は三月二八日以降は、事務局長を辞任した事実を否定している。そして会員の間には、被告は三月二一日の運営委員会には出席していなかったとか、事務局長を解任されたというような噂が流れた。（噂の発生源は被告と推測される）。その後被告は「運営委員会に出席して辞任したではないか。」と具体的に追及されると、「辞任するとは言ったが、辞任したとは言っていない。」等と詭弁を弄していたのである。（しかも一般会員に対しては「辞任する」と言ったことすら知らせていない）。

（三）また被告は、辞任した当日、貸金庫のキーを運営委員会に手渡し、それによって中の預金通帳類を運営委員会に引渡したが、その事実も会員には一切隠し、通帳類を金庫から取り出した原告執行部の者を窃盗犯呼ばわりしている。被告は事務局長を借称して、四月二二日に「J A V A 総会」なる集会を開催したが、その集会の席上、ある会員から、「（椎名らの報告書では）三月二一日貸金庫の鍵を手渡された、とあるが真実はどうなのか。」と質問がなされた。これに対して被告は、しぶしぶ、初めて、三月二一日貸金庫のキーを運営委員会に手渡したことを認めた。しかしなお、「印鑑は私が持っていた。ハンコがなくてどうして開いたのかしら。これは考えて見なくちゃいけない問題だと思います。」等とウソブイている。貸金庫を開ける印鑑は正副二本登録しており、二本とも被告が保管してきたが、

三月二二日は、キーと副の印鑑を運営委員会に渡したのである。被告が全国四千数百人の会員に、本件トラブルについて最初に流した文書は「除名のお知らせ」(甲第七号証)である。被告が辞任したことや貸金庫のキーを渡したこと等の事実経過を全て隠している。

次に被告が発送したのは「会員の皆様へ」なる葉書だが(甲第八号証)、ここでも事実経過は全く記載していない。

その次に被告が全国会員に発送したのは「第9回J A V A総会のご案内」(甲第九号証)であり、その四頁には経過報告が記されている。

三月二二日の辞任が隠されていることはもちろん、同日から二七日までの事務引継ぎを行ったことや事務所移転の協力等は一切隠され、二八日の新事務局長の選任から突然話が始まっている。被告はこのような小細工で全国の会員を騙すことができると考えているのである。

九、原告の会員は全国に散らばっている。被告は平成三年以来原告の代表であり、その知名度は抜群に高い。しかも会員の中には、まるで新興宗教の信者のごとく、教祖さま(被告)の言葉しか耳に入らない者もいる。(現に被告のことを「動物のキリスト」と称する側近もいる)。それらの者の中には、被告のアジテーションを信じ込み、原告の執行部(スタッフ一二名、内女性一名)各人の家庭へ、脅迫電話やワイセツ電話、いやがらせのFAX等をひっきりなしにかけてくる者もいる。中には勤務先の職場にまで同様の電話をしてきた者もいる。

さらに被告は、正式裁判になったら、嘘で固めた自分に勝目はないことを十分に承知しているので、原告に裁判を提起させないようにすることを画策している。そのために弁護士費用を原告の会計から支出させないようにするキャンペーンを展開しており、弁護士費用を支払うなら会費を返還せよ、といった内容のFAXが原告事務所にも多数送られてきている。中には、原告についている弁護士の氏名をあげて、「この弁護士はあなたたちを扇動し、利用している」「弁護士費用は裁判が長引けば何千万円かかるかわからない」「(この弁護士は)何百万もの大金を簡単に手に入れるためあなた達を利用している」「敗訴のときはスタッフ一人あたり何百万円かを負担しなければならなくなるが、ご主人に何百万円出してくれと頼めますか、実家のご両親に何百万円も出してもらえますか。」というような卑劣なFAXを、原告のスタッフ全員の家庭へ送りつけてきた被告の側近もいる。

一〇、被告の行為は、原告の信用を損ね、原告の運営を妨げること明らかなので、平成七年四月一七日、会則第七条二項により被告を除名した(甲第一三三号証、第一四号証の一、二)。

一一、現在、原告J A V Aは大混乱に陥っている。それは被告が原告の代表ならびに一切の役職から正式に辞任し、一会員になったにもかかわらず(それも現在は除名されているが)、そのことを全国の会員に隠し、あたかも自分が代表者であるかのごとくふるまい、「J A V A事務局長野上ふさ子」名を用いて全国の会員に通信を流していることによる。この違法状態を解消し、原告の被害の増大を防ぐために請求の趣旨記載の判決を求めるものである。

なお、被告の嘘で固めたアジテーションならびに被告の信奉者による原告関係者に対する前述のようなイヤガラセは現在も続けられているので、本件は早急に判決を出していただきたく希望するものである。

以上

証拠方法

甲第一号証	J A V A会則(平成七年三月二二日現在)
甲第二号証	運営委員会議事録
甲第三号証	事務局スタッフ会議議事録
甲第四号証	新事務局長選任確認書
甲第五号証	事務局移転確認書
甲第六号証	運営体制及び事務局移転のお知らせ
甲第七号証	葉書「除名のお知らせ」(野上ふさ子作成)
甲第八号証	葉書「会員の皆様へ」(四月三日付、野上ふさ子作成)
甲第九号証	「第9回J A V A総会のご案内」(野上ふさ子作成)
甲第一〇号証	「第9回J A V A総会開催に関する御注意」
甲第一一号証	「住所移転届の無効確認書」(野上ふさ子作成)
甲第一二号証	転居届(野上ふさ子作成のもの手書写)
甲第一三三号証	野上ふさ子氏除名確認書
甲第一四号証の一、二	除名通知書(野上ふさ子宛)
甲第一五号証	仮処分申立書
甲第一六号証	仮処分審尋調書(和解)
甲第一七号証	「野上ふさ子氏の四月一四日付手紙の真相」
甲第一八号証	リーフレット「NO MORE ANIMAL TESTING」
甲第一九号証	リーフレット「J A V Aがやっていること」
甲第二〇号証	朝日新聞(平五・一二・二〇)
甲第二一号証	朝日新聞(平七・四・一四)
甲第二二号証	新聞広告(一九九四・九・一五読売新聞)
甲第二三号証	神奈川県衛生部長回答書(事務局長 椎名安子宛)
甲第二四号証	J A V A(資料集3)
甲第二五号証	ジャパニユース(臨時)(一九九五・MAR・APR)